

【ダイバーシティ経営の基本・課題・副作用】 4.1年間の「育休経営者」として見てきた役職員の 意識変革の必要性

日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村 智恵 氏 2016/09/01

- ダイバーシティ
- ワークライフバランス
- 女性活躍推進
- 労務管理・福利厚生を整備したい
- 従業員満足度を向上させたい
- 社員のやる気を高めたい

ツイート

いいね! 2



経営者として1年間の育休取得を取得！家事の主役として「主夫」修行

筆者は、現在3歳になる息子が生まれる前後で連続して1年間の育休を取得しました。企業経営者として、また、ダイバーシティ&インクルージョンや人権・倫理などを指導する専門家として、口先だけの経営指導・研修・講演にならないように日々考えていたことに加えて、結婚を機に自分の仕事よりも将来続く家庭を大切にしたいと強く思うようになったからです。

独身の頃の「仕事最優先」だった生活を大きく変えてくれて、筆者の価値観や行動・実践の多様化を自然と促してくれた妻や息子との縁をありがたく思うのです。

妻の妊娠がわかってから仕事をセーブしはじめ、つわりで苦しむ妻の代わりに食事の支度や洗濯、掃除など、家事のサポートではなく主役としてこなしました。そして同時に妻の出産や、出産後は息子の急病などに備えて、24時間365日いつでも病院に連れていけるよう、お酒を一滴も飲まず常に準備を整えていました。

こうした経験を通して、「ちょい家事」（筆者なりに言う「ちょっと家事をかじった程度」）だけでは見えにくい、家事に疎い方への留意点が見当たるようにになりました。

「ゴミ出しするよ」「皿洗いしておいたよ」と言う人が陥りがちな問題点

傾向としては企業で働く方々（特に男性の方）からよく聞かれるのが「ゴミ出しするよ」や「皿洗いしておいたよ」などの発言です。しかし、よく聞いてみると育メン気取りでどとといった「しっかり家事を手伝っている」という意味合半可な「男女共同参画偽装」ともいえるような実態があるので

す。例えば、「ゴミ出しするよ」という方に多いのは、単に出動前にゴミ袋をゴミ置き場に「移動」させるだけ、というケースです。

筆者からすると、「ゴミ出し」は、各部屋のゴミ箱からゴミを集め分別してゴミ出し用のゴミ袋に詰めてくくり、ゴミ出しの曜日と時間を確認してからゴミ置き場にゴミ袋を持っていき、家に戻ってきたら各部屋のゴミ箱に替えるゴミ袋をセットしてはじめてゴミ出し完了、と相成ります。

同じく、「私は皿洗いしてますよ」という方が、実際には単に皿についた汚れをスポンジで洗い流してそのまま皿を置いてある、というだけのケースも見受けられました。

これも筆者からすると、「皿洗い」は、みんな集まる食卓で「ごちそうさま」の後にお皿をキッ

会員登録 / ログイン

会員登録すると会員限定機能や各種特権がご利用いただけます。

新規会員登録

会員ログインの方はこちら

ID
PASS

ログイン

パスワードを忘れた方

成功事例集プレゼント!
集客アップにつなげるホームページ
ネットショップ運営
実績 20,000件以上!!
クラウドパッケージ CLOUD PACKAGE

人気記事ランキング

- CS（顧客満足）よりも、ES（従業員満足）を！
- 【経営階層に求められる能力とは？】4.相生相克とシステム思考
- 【社員の強みを活かすタレントマネジメントの本質】4.経営戦略に必要な人事機能とは
- 【経営者のあの一言 Vol.16】番外編「やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて……」日本海軍連合艦隊司令長官 山本五十六
- こんな上司は嫌われ「休日に仕事の電

チンまで持ってきて、皿についた汚れをスポンジで洗い流し、その後、最も重要なポイントとして、皿を拭き上げて元の食器棚に次に使いやすいように並べておき、更に、シンクの流しにたまった野菜くずなどのネットを取り換えて、はじめて皿洗い完了と相成ります。

つまり、普段から家事をしようと思っておらず、伴侶にまかせっきりの家事に疎い方は、男女共同参画ではなく「男女不平等参画」の状態になりかねないことが、筆者として問題だと思っています。

立会出産で父親としての自覚と子供の人権の「重さ」を感じる

筆者の場合は、育休といっても女性でいえば産休のようなタイミングでの取得でしたので、息子が生まれ来た瞬間に立ち会うことができました。

ある初夏の深夜、陣痛がはじまった妻をつれて産婦人科へ車を走らせました。「出産も男女共同参画」として、また、旧来のお産シーンの多様化のひとつとして、陣痛に耐える妻の背中をさすったり、飲み物を用意しながら付き添ったのですが、陣痛のつらさがかちりと受け止めるかのように筆者が妻にバシバシと「痛いよー」といいながらたたかれるなどといったこともありました。

そのまま一緒に分娩台で朝を迎え、産声を聞いた時の妻の安堵した美しい表情は、今も鮮明に覚えています。

産婦人科医が、生まれてすぐのわが子を「はい、お父さん、元氣な息子さんですよ」と抱っこさせてくれました。これも、かつては分娩室の外で産声を聞くというスタイルからの出産シーンの多様化のなせるワザなのかもしれません。

こうした場面に立ち会ったとき、「この子と妻をオレが守ってやる！」と思う方がいるかもしれません。しかし、筆者は少し違いました。

「オレが守ってやる！」の前提には幸せは与えるもの／与えられるものという考え方がありません。筆者にとって「幸せ」とは一方的に与えられたり与えたりするものではなく「お互いに幸せになりあえるようにして行って、はじめてお互いの幸せに至る」ものなのです。

ですから、妻と子を前にして、モラハラのような自分の「当り前」を押し付けることなく、息子を型にはめてエリートコースという名の幻想にひた走らせることなく、お互いに幸せになりあえるよう、筆者も新たな家庭環境や仕事の対応で多様化して適応していこうと、思いを新たに第2次第2次でした。

関連リンク

- ・日本マネジメント総合研究所合同会社 企業情報
- ・【ダイバーシティ経営の基本・課題・副作用】1.ここが変だよ！日本のダイバーシティ経営
- ・【ダイバーシティ経営の基本・課題・副作用】2.なぜ「多様性の尊重」から「多様化」への転換が必要なのか？
- ・【ダイバーシティ経営の基本・課題・副作用】3.元、国連の専門官として見てきた世界標準のダイバーシティ対応

1 2 >

お気に入りに登録

関連ニュース



【ダイバーシティ経営の基本・課題・副作用】3.元、国連の専門官として見てきた世界標準のダイバーシティ対応

筆者は元国際公務員として、国連で内部監査業務の専門官や国連戦略立案専門官リーダー、国連主導の世界的CSR運動である「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」（人権・環境・労働・腐敗防止の4分野に関する健全な対応を促す取り組み）において、団体加盟や普及を目的とした企業誘致・広報業務などを担当してきました。



【経営トレンドワード】ワークライフバランス

「ワークライフバランス」（以下、WLB）とは、“仕事と生活の調和”と訳され、仕事における責務を全うしながらも、仕事以外の様々な要素（家庭・地域社会との関わり、趣味、自己啓発etc）にかかる個人の時間を持っており、仕事と生活が両立している状態を指す。

ピックアップ



良品計画 松井氏ほか、経営プロフォーラム2016 Spring講演録公開中！



実効性と投資効果という課題を捉えた新発想シミュレーション研修、「ムビケーション」



C社が一度失敗した顧客管理システムの構築。成功させたのは“社外システム参謀”だった！



集客アップにつなげるホームページ・ネットショップ運営。今だけ！成功事例集プレゼント！

人気キーワードタグ

リーダーシップ

チーム・ビルディング

タレントマネジメント

成長企業

リスクマネジメント

ダイバーシティ

女性活躍推進

ワークライフバランス

次世代経営者育成

ビッグデータ

解決したい課題

社員を優秀な人材に育成したい

経営力・マネジメント力を強化したい

社員のやる気を高めたい

経営戦略・事業計画の支援がほしい

優秀な人材を採用したい

労務管理・福利厚生を整備したい

従業員満足度を向上させたい

サービス・商品開発力を強化したい

イノベーションを生む組織にしたい

組織・人事変革を検討したい

掲載企業情報



株式会社リエンゲージメント



株式会社ジェック